

牛群検定通信 No106

～乳量は伸びていますか？チェックしてみよう！～

1 最近の検定成績

平成30年1～12月の乳量は、夏季に一時期落ち込みましたが、期間を通じて良好に推移しました。例年の都府県の乳量推移は、毎年2～5月ごろが最も乳量が高くなる季節です。6月を過ぎると暑熱の影響と、日長の関係から乳量が下がって行き、8月に底になり、その後回復していくのが通例で、毎年繰り返します。

みなさん検定成績では乳量は伸びていますか？もし、2月の成績表でも乳量が伸びていなければ、何か乳量を下げ的原因があるのかも知れません。検定成績を使ってチェックしてみましょう。

2 乳量をチェック

まず、検定成績表1枚目の牛群成績の中央に記されている「移動13カ月成績」を見て、この2月の成績がこれまで1年間のなかで高い方になるか、確認してください。

3 乳量が伸びていなければ・・・

乳量をチェックした「移動13カ月成績」を使って次のような点をチェックしてください。

(1) 繁殖のチェック

移動13カ月成績のうち「搾乳日数」をチェックしてください。昨年の繁殖が思わしくない場合、搾乳日数が長期化し、乳量が減少します。搾乳日数の目標値は160日程度です。夏季の繁殖が極端に悪化しているような例では、搾乳日数が季節的に変動することもあります。

(2) 体細胞数のチェック

移動13カ月成績のうち「体細胞数」をチェックしてください。体細胞数が283千個を越えて高い場合は乳房炎が蔓延していることとなります。乳房炎は乳量を著しく低下させます。

(3) 飼料をチェック

移動13カ月成績のうち「P/F比」をチェックしてください。P/F比は牛群としては0.8～0.9が適正範囲です。0.8を下回る場合は栄養不足0.9を越える場合は濃厚飼料比率が高いと考えられ、乳量の減少につながるばかりか、周産期病等の原因ともなります。

(4) その他

寒冷により次のようなトラブルも乳量の減少につながります。

- ・水道の凍結により十分に飲水ができない
- ・牛舎を締め切ったことによるアンモニアやホコリの充満から気管支炎
- ・敷料不足による冷えから下痢
- ・その他の寒冷ストレス